Ⅳ　アンケートによる調査結果について

○　「公立高等学校入学者選抜に関するアンケート」について

1　調査の概要

アンケートは平成１７年度には、高校１年生及びその保護者、公立中学校長及び公立高等学校長を対象に、平成２０年度には、中学３年生及びその保護者を対象として、概ね同一の項目について調査した。

（１）　調査の目的

現行の入学者選抜制度導入の目的の達成状況を把握するとともに、導入後の状況等を総合的に検証し、今後の改善方策の検討の基礎資料とする。

（２）　調査対象（平成２０年度実施：４，９０８人　平成１７年度実施：３，６８０人）

アンケートは、平成２０年度においては中学３年生及びその保護者、平成１７年度入学者においては、直近の選抜において受験生であった、高校１年生（「特色化」合格者・「一般」合格者）及びその保護者のほか、県内全公立中学校長、全公立高等学校長を調査対象としており、高校入試に関わるすべての関係者からの公平かつ具体的な意見の聴取に努めた。

ア　中学３年生・・・・・・公立中学校（３５校）の各２学級の在籍生徒全員（２，４５４人）

イ　中学３年生の保護者・・アの生徒の保護者　（２，４５４人）

ウ　高校１年生・・・・・・普通科（１２校)、専門学科及び総合学科（５校）の各２学級の在籍生徒全員（１，３２２人）

エ　高校１年生の保護者・・ウの生徒の保護者　（１，３１８人）

オ　中学校・・・・全公立中学校長（１９３人）

カ　高等学校・・・全公立高等学校長（６６人）

（３）　調査方法調査対象校を通して実施

（４）　調査時期　中学３年生及びその保護者：平成２０年６月
公立高等学校長：平成１７年５月
公立中学校長・高校１年生及びその保護者：平成１７年１１月

（５）　回収結果　７，０８７件

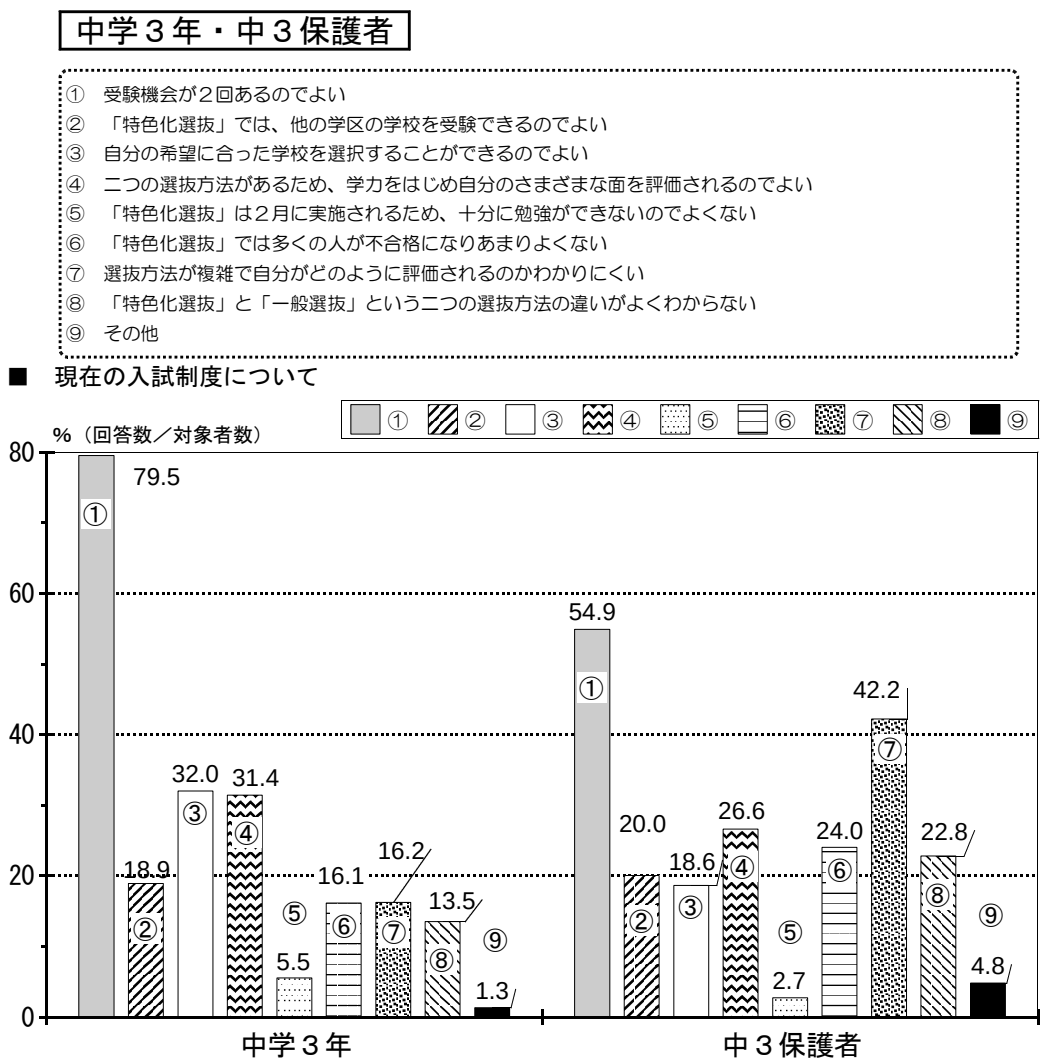
	配付数	回収数	回収率
ア　中学３年生	２，４５４	２，２８４	９３．１％
イ　中学３年生の保護者	２，４５４	２，００１	８１．５％
ウ　高校１年生	１，３２２	１，３１７	９９．６％
エ　高校１年生の保護者	１，３１８	１，２２６	９３．０％
オ　公立中学校長	１９３	１９３	１００　％
カ　公立高等学校長	６６	６６	１００　％
計	７，８０７	７，０８７	

（１）　「受験機会の複数化」について

（調査結果の概要と分析）

本県において「特色化選抜」と「一般選抜」という２種類の選抜方法を実施していることについて、平成２０年度実施のアンケートにおいて、中学３年生の７９．５%、中学３年生の保護者の５４．９%が「受験機会が２回あるのでよい」と回答している。＜（図１）参照＞

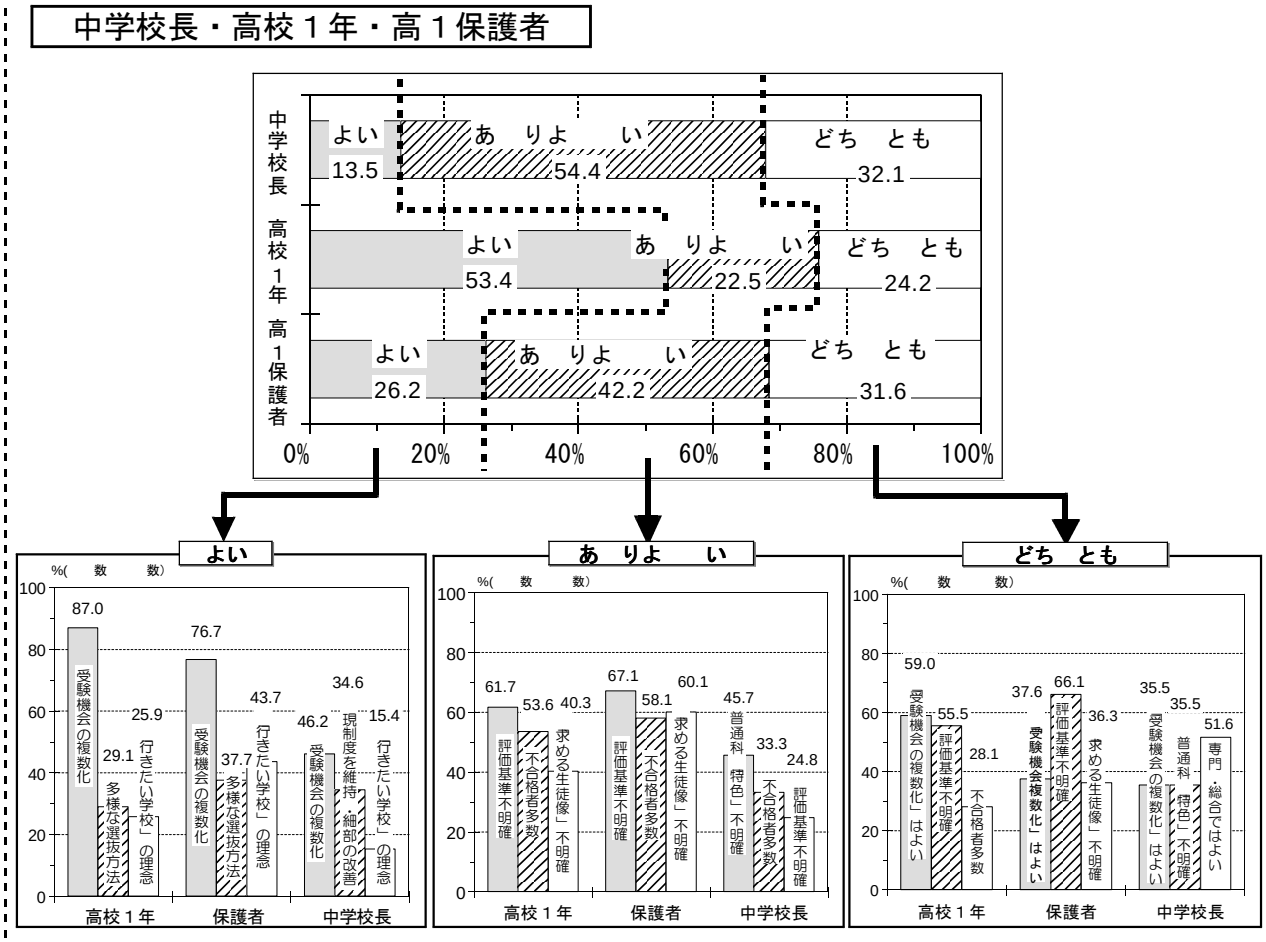
（図１）現在の入試制度についてどのように思うか　＜平成２０年度アンケート結果より＞



また、平成１７年度実施のアンケートにおいて、「特色化選抜」について「よい」と回答した者のうち、高校１年生の８７%、高校１年生の保護者の７６．７%、中学校長の４６．２%が「受験機会の複数化」について「よい」 と回答している。

一方、「特色化選抜」について「どちらともいえない」と回答した者のうちでも、高校１年生の５９%、高校１年生の保護者の３７．６%、中学校長の３５．５%が「受験機会の複数化」について「よい」と回答している。＜（図２）参照＞

（図２）「特色化選抜」についてどのように思うか　＜平成１７年度アンケート結果より＞



以上のことから、<u>「受験機会の複数化」については、受験の主体者である子どもたちを中心として評価</u>されているといえる。

（２）　「募集人員の割合」について

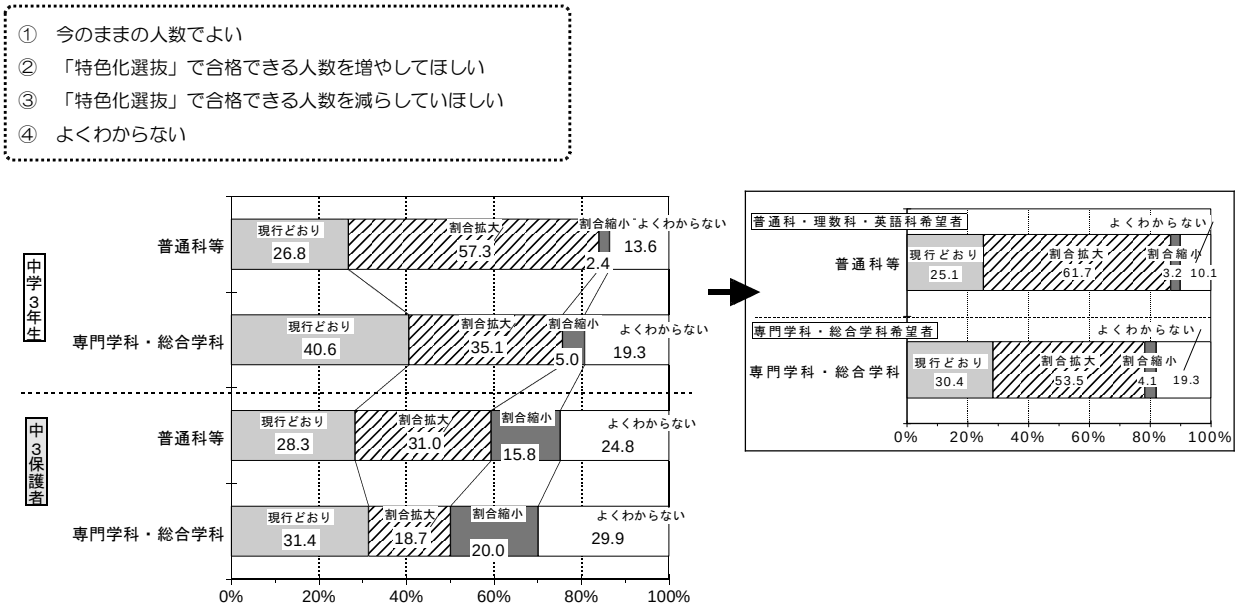
（調査結果の概要と分析）

平成２０年度実施のアンケートにおいて、「特色化選抜」の募集人員の割合について、「普通科・理数科・英語科」においては、「合格できる人数を増やしてほしい」との回答が、中学３年生全体の５７．３％（うち「普通科・理数科・英語科」を志望する者の６１．７％）、中学３年生の保護者の３１％と最も多い一方で、「専門学科・総合学科」においては、「今のままの人数でよい」との回答が、中学３年生全体の４０．６％（うち「専門学科・総合学科」を志望する者の３０．４％）、中学３年生の保護者の３１．４％となっている。

これに対し、「合格できる人数を減らしてほしい」との回答は、「普通科・理数科・英語科」においては、中学３年生全体の２．４％（うち「普通科・理数科・英語科」を志望する者の３．２％）、中学３年生の保護者の１５．８％、「専門学科・総合学科」においては、中学３年生全体の５％（うち「専門学科・総合学科」を志望する者の４．１％）、中学３年生の保護者の２０％であった。

以上のことから、「特色化選抜」の募集人員の割合について、「普通科・理数科・英語科」については、募集人員の割合の上限の緩和を望む傾向が、中学３年生において特に強く、「専門学科・総合学科」については、現状維持を望む傾向が比較的強いといえる。＜（図３）参照＞

（図３）「特色化選抜」で合格できる人数についてどのように思うか　＜平成２０年度アンケート結果より＞



また、平成１７年度実施のアンケートにおいて、「特色化選抜」の募集人員の割合については、高校１年生及びその保護者と中学校長及び高等学校長とにおいて回答の傾向が異なるものになった。高校１年生及び保護者では「今のままでよい」との回答が最も多い（高校１年生５４．１％・保護者３７．１％）のに対して、中学校長及び高等学校長においては「募集人員割合の拡大」との回答が最も多かった（中学校長＜普通科等について＞４６．１％・高等学校長５４．５％）。

ただし、中学校長の「募集人員の拡大」への回答の理由には「判定基準等条件整備の上での

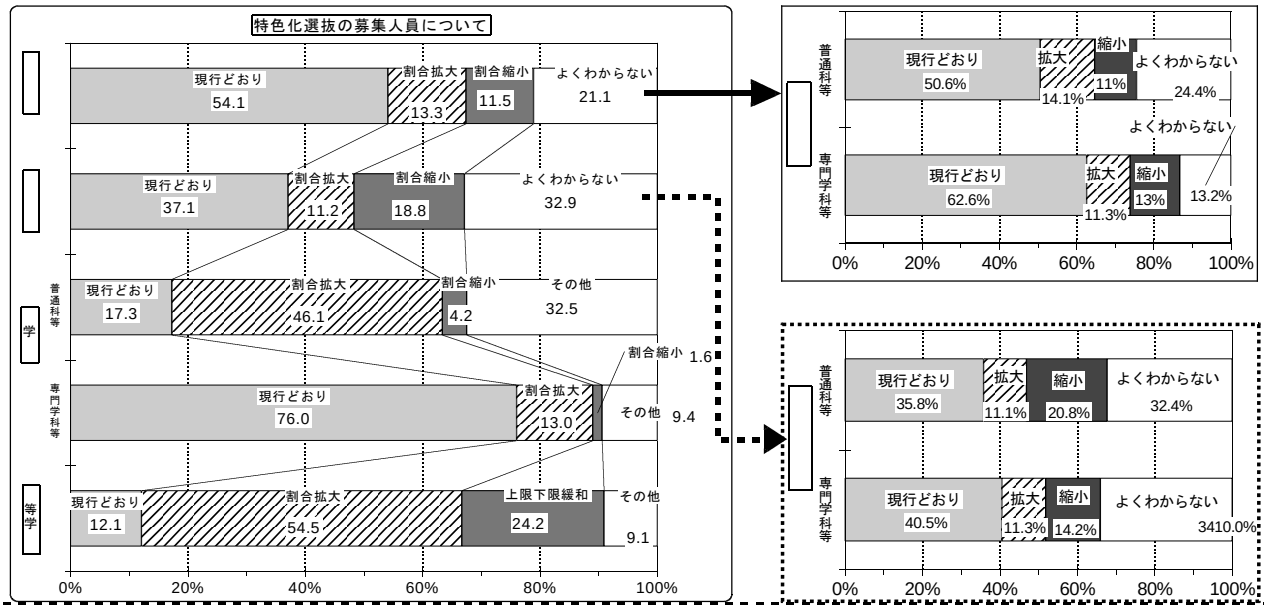
拡大を望む」との意見もあり、募集人員の増加よりも先に、「判定基準の明確化」を重視する傾向にある。

また、**高校１年生の１１．５%、保護者の１８．８%が「募集人員の割合の縮小」**と回答しており、保護者では「募集人員の割合の拡大」の１１．２%よりも高ポイントであった。

＜（図４）参照＞

（図４）「特色化選抜」で合格できる人数についてどのように思うか　＜平成１７年度アンケート結果より＞

中学校長・高等学校長・高校１年・高１保護者



（３）　「多面的評価及び多様な選抜方法の在り方」について

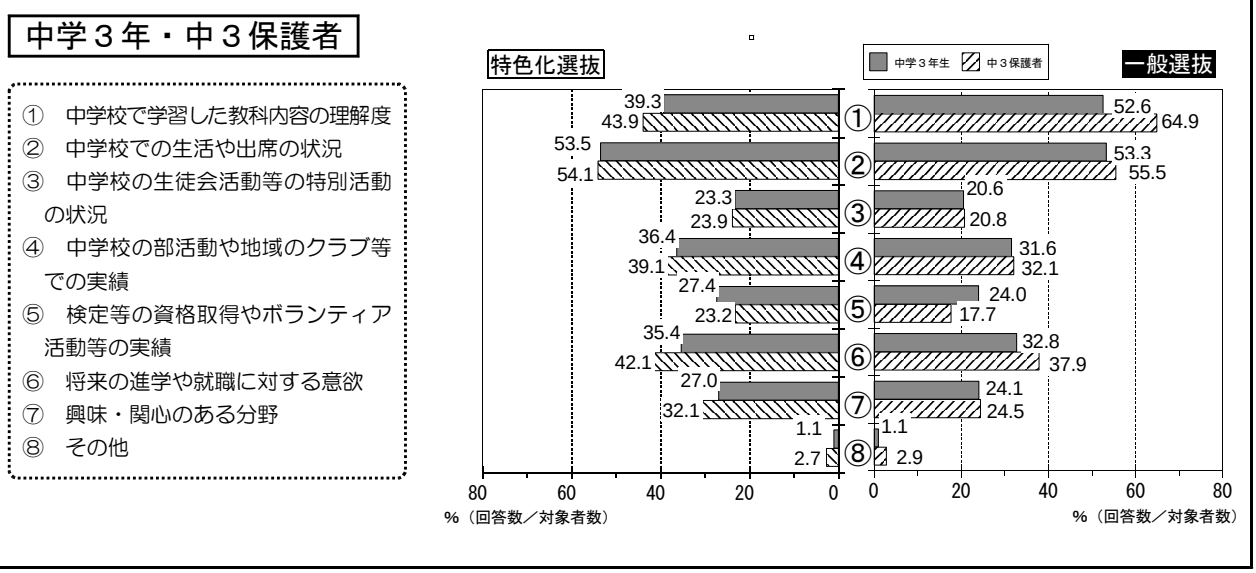
①　高校入試における評価項目について

（調査結果の概要と分析）

高校入試で評価してほしい項目としては、平成２０年度実施のアンケートにおいて、**全体的に「中学校で学習した内容をどこまで理解しているのか」との回答が比較的多く**（＜特色化選抜＞中学３年生３９．３％・保護者４３．９％、＜一般選抜＞中学３年生５２．６％・保護者６４．９％)、中でも、**「一般選抜」の中学校３年生の保護者については、６４．９％と最も高いポイント**であった。

特に、「特色化選抜」については、「中学校の生徒会活動等の特別活動の状況」「中学校の部活動や地域のクラブ等での実績」「検定等の資格取得やボランティア活動等の実績」「将来の進学や就職に対する意欲」「興味・関心のある分野」等への回答も一定の割合を占めていることから**中学校での学習成績をはじめ、中学校３年間の生活を幅広く評価してほしいとの傾向**が、**「一般選抜」よりも全体的に高い**。＜（図５）参照＞

（図５）高校入試で評価してほしい観点についてどのように思うか　＜平成２０年度アンケート結果より＞



また、平成１７年度実施のアンケートにおいて、高校１年生及びその保護者が「特色化選抜」において評価してほしい観点としては、**「中学校の学習成績」「中学校での生活や出席状況」「将来の進学や就職に対する意欲」が上位を占めた**。

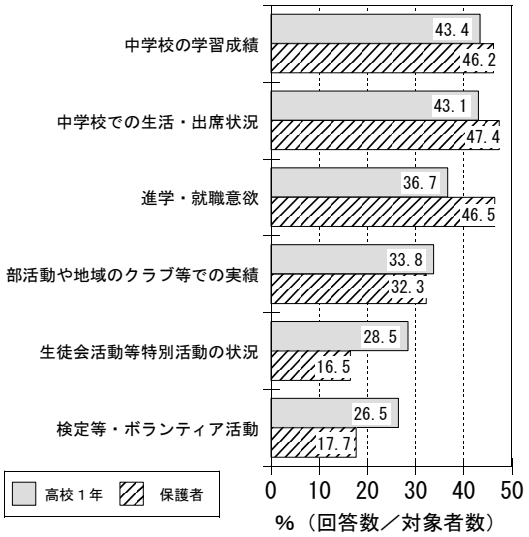
さらに、「中学校での部活動や地域のクラブ活動」「中学校での生徒会活動等特別活動」「検定等の資格取得やボランティア活動」等についても、特に高校１年生において、評価をしてほしいとする回答が多く、**中学校での学習成績をはじめ、中学校３年間の生活を幅広く評価してほしいとの傾向**がみられた。

高等学校側が「特色化選抜」において評価したい観点としては、「中学校の学習成績」をはじめとして、以下、「中学校の部活動や地域のクラブ等での実績」「中学校での生活や出席の状況」「将来の進学や就職についての意欲」「中学校の生徒会活動等の特別活動の状況」等がほぼ同率で、高等学校においても、**高校１年生及びその保護者と同様に、中学校での学習成績をはじめ、中学校３年間の生活を幅広く評価したい**と考えている。＜（図６）参照＞

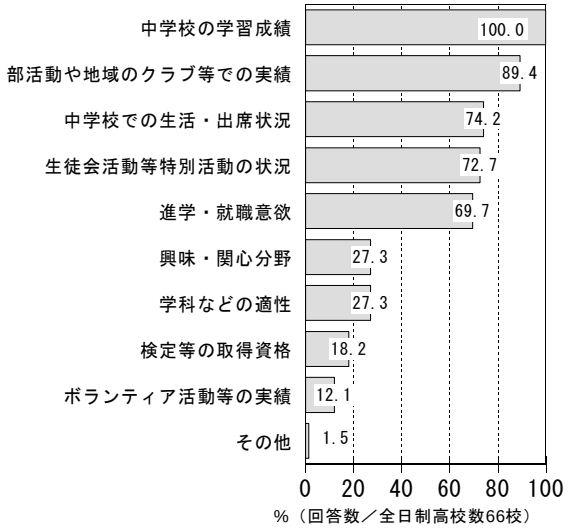
（図６）「特色化選抜」における評価観点・評価項目について＜平成１７年度アンケート結果より＞

高等学校長・高校１年・高１保護者

■評価してほしい観点（高校１年・保護者）



■評価したい観点（高等学校長）



②　高校選択の観点について

（調査結果の概要と分析）

志望する高校を選択する観点として、平成２０年度実施のアンケートにおいて、中学校３年生及びその保護者とも、**各選抜方法について「合格できるかどうか」を最も重視**しており、**特に「一般選抜」については、より高ポイントとなっている**（＜特色化選抜＞中学３年生６３．５％・保護者５７．２％、＜一般選抜＞中学３年生７５．１％・保護者６９．９％）。

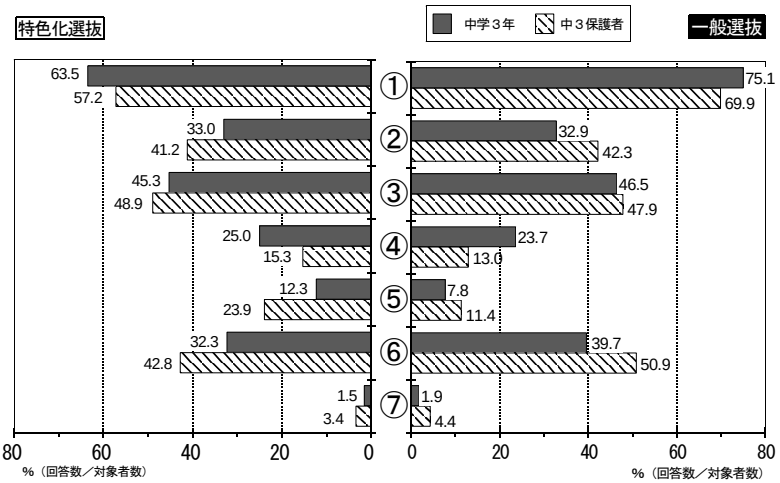
その他、**「大学進学実績・就職実績・資格取得実績」や、「高校の教育目標・教育内容」等も高校選択の観点として重視する傾向**にある。

一方、**「通学距離・交通の便」についても、高校選択の重要な観点**となっているが、特に「一般選抜」では志望校選択の際の観点として大きな割合を占めている（＜特色化選抜＞中学３年生３２．３％・保護者４２．８％、＜一般選抜＞中学３年生３９．７％・保護者５０．９％）。＜（図７）参照＞

（図７）志望高校選択の観点についてどのように思うか　＜平成２０年度アンケート結果より＞

中学３年・中３保護者

① 合格できるかどうか
② 大学進学実績や就職実績や資格取得実績
③ 高校の教育目標・教育内容
④ 高校の部活動や生徒会活動などの特別活動
⑤ それぞれの選抜で実施する検査内容
⑥ 自宅からの通学距離や交通の便
⑦ その他

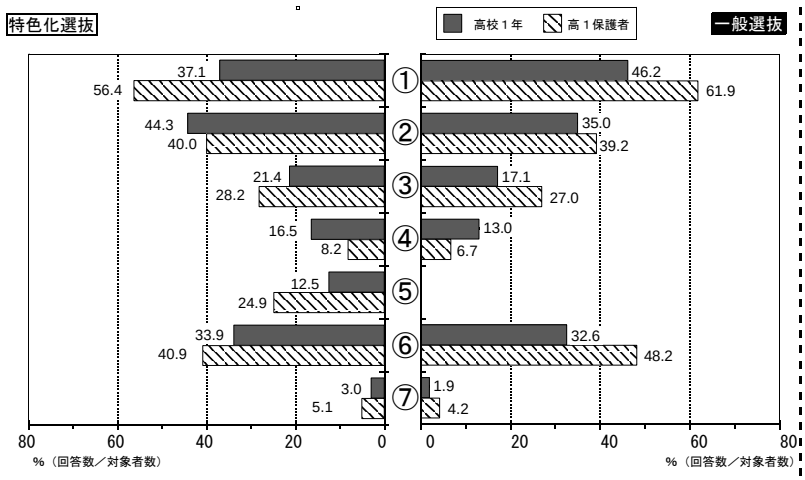


また、平成１７年度実施のアンケートにおいては、**「特色化選抜」については、高校１年生では「大学進学実績・就職実績・資格取得実績」との回答が４４．３%、高校１年生の保護者については「合格できるかどうか」との回答が５６．４%と最も多い**のに対し、**「一般選抜」については、高校１年生及びその保護者とも「合格できるかどうか」との回答が最も多い**（高校１年生４６．２%・保護者６１．９%）。

その他、**「高校の学科やコースの内容」、「高校の生徒会活動・部活動」等も高校選択の観点として重視する傾向**にある。

一方、**「通学距離・交通の便」についても**、いずれの選抜方法・調査対象についても回答が一定の割合を占め、**志望校選択の重要な観点の一つ**となっている（＜特色化選抜＞高校１年生３３．９%・保護者４０．９%、＜一般選抜＞高校１年生３２．６%・保護者４８．２%）。＜（図８）参照＞。

（図８）志望高校選択の観点についてどのように思うか　＜平成１７年度アンケート結果より＞

高校１年・高１保護者

① 合格できるかどうか
② 大学進学実績・就職実績・資格取得実績
③ 高校の学科やコースの内容
④ 高校の部活動や生徒活動等の特別活動
⑤ それぞれの選抜で実施する検査内容
⑥ 自宅からの通学距離や交通の便
⑦ その他